

# 舞鶴市議会 福祉健康委員会 活動報告

- 福岡県北九州市における取組の調査
- 山口県防府市における取組の調査
- 岡山県倉敷市における取組の調査

## 福祉健康委員会調査視察

実施日：令和4年5月17日～19日

## 視察の目的

「誰一人取り残さず、高齢者が生きがいを持って安心して生活することができる環境づくり」「高齢者同士が助け合い、自立できる環境づくり」を目指し、高齢者の自立と生活支援サービスの充実に向け、実効性のある重層的な取組を推進している事例を調査し、新たな視点を得るため視察を行った。

これまでの様々な調査研究結果や今回の視察を踏まえ、より効果的な市への提言につなげていく。

## 〔福祉健康委員会の令和4年の重点事項〕

- (1) 地域包括ケアシステムの充実に関する調査研究
- (2) 小地域での見守り体制の構築に関する調査研究

## 視察先及び日程

日	程	視察先	調査事項
令和4年5月17日(火)	14時00分～15時30分	福岡県北九州市	高齢者の自立と孤立防止に関する取組について
令和4年5月18日(水)	13時00分～14時30分	山口県防府市	高齢者の自立と生活支援サービスの充実について
令和4年5月19日(木)	10時00分～11時30分	岡山県倉敷市	高齢者の孤立防止と生活支援サービスの充実について

舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。



# 福祉健康委員会調査視察

実施日：令和4年5月17日～19日

## 【福岡県北九州市】調査事項：高齢者の自立と孤立防止に関する取組について

### 《北九州市の取組の概要》

- ◇ 小学校区、区、市と役割を明確に区分した三層構造による地域福祉のネットワークが構築されていた。
- ◇ 民生委員の補佐を担う福祉協力員、福祉協力員の支援として市民の手助けを行うニーズ対応チームが配員されていた。
- ◇ 縦割り行政を打破し、包括的な支援の実現を図るため、既存の制度を担当しない「いのちネット担当係長」が配員され、行政内部の迅速な調整と地域との円滑な連絡調整が行われていた。



北九州市職員から説明を受ける



### 《委員の所感》

- 地域全体で支え合う仕組みづくりが求められている本市において、北九州市の制度設計と人材の確保は、大いに参考となるものである。
- 福祉協力員のような民生委員をサポートするための支援について、本市でも何らかの方策の検討が必要と考える。
- 課題にワンストップ対応ができる行政サイドの体制づくり、地域による支え合いの制度強化のため、行政と地域の関係性の構築が必要である。

# 福祉健康委員会調査視察

実施日：令和4年5月17日～19日

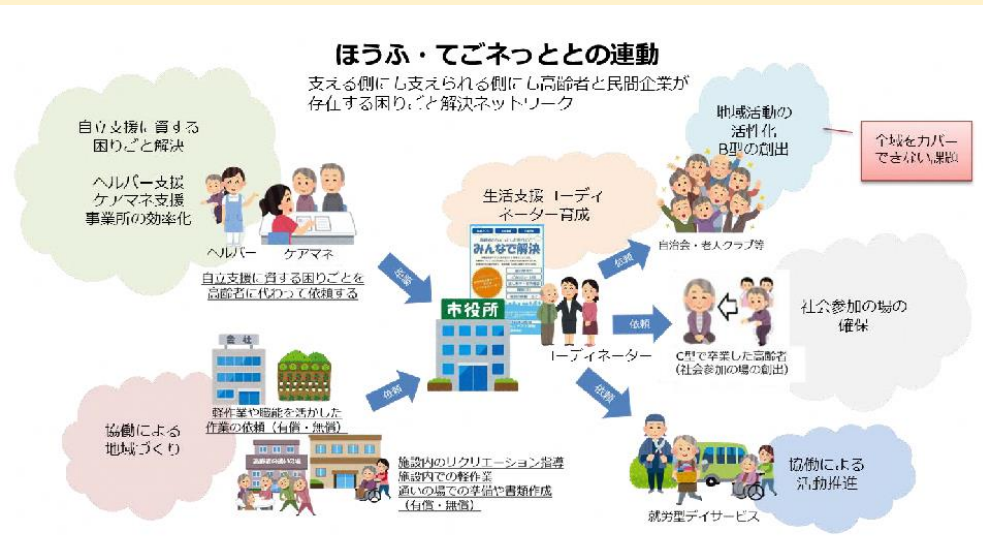
## 【山口県防府市】調査事項：高齢者の自立と生活支援サービスの充実について

### 《防府市の取組の概要》

- ◇ 地域包括支援センターに配員されている生活支援コーディネーターが地域に入り込み、生活支援事業、高齢者支援事業の中心となっていた。
- ◇ 介護専門職が把握する高齢者の困りごとを市が受け付け、地縁団体や老人クラブ等に依頼して解決する「ほうふ・てごネっと」という仕組みをつくり、高齢者の社会参加や生きがい創出に取り組まれていた。



防府市職員から説明を受ける



「ほうふ・てごネっと」の仕組み

### 《委員の所感》

- 舞鶴市の課題整理の見直しや行政と地域包括支援センターのつながりなど、仕組みづくりのお手本として学ぶ点は多かった。
- 防府市の取組は、保険外サービスや訪問サービスの効率化と高齢者の生きがい創出につながるものであり、専門職の活用について参考となる事例であった。
- 解決すべき課題が、高齢者に関わるヘルパーやケアマネージャーといった専門職からのみ提出され、高齢者の自立支援につながることに限定されていることは制度を持続する上で注目したい。

## 福祉健康委員会調査視察

実施日：令和4年5月17日～19日

【岡山県倉敷市】調査事項：高齢者の孤立防止と生活支援サービスの充実について

## 《倉敷市の取組の概要》

- ◇ 「通いの場」の提供に力を入れており、参加者が2人からでも出会いの場や話し合い、活動の場をつくり上げていた。
- ◇ 社会福祉協議会に配員されている専任の生活支援コーディネーターの活動により、自治会をはじめ市・社会福祉協議会・NPO法人・社会福祉法人などを巻き込んだ事業展開がなされていた。



「通いの場」や地域の支え合い活動について、毎年冊子がつくられ情報発信が行われている。



倉敷市職員から説明を受ける

## 《委員の所感》

- この取組ができるのは、地域社会福祉協議会など、地域の土台が確立していることにあると考える。様々な団体の良いところを引き出す努力に目を見張るものがあった。
- 高齢者支援を行うに当たって、高齢者だけに焦点を絞るのではなく地域全体で物事を捉える視点と、課題を共有し、関係者や携わる人物、全市民で取組を進めていく姿勢が参考となる。
- 行政との連携において、各団体のかけはしになる生活支援コーディネーターの配置の重要性を認識した。